

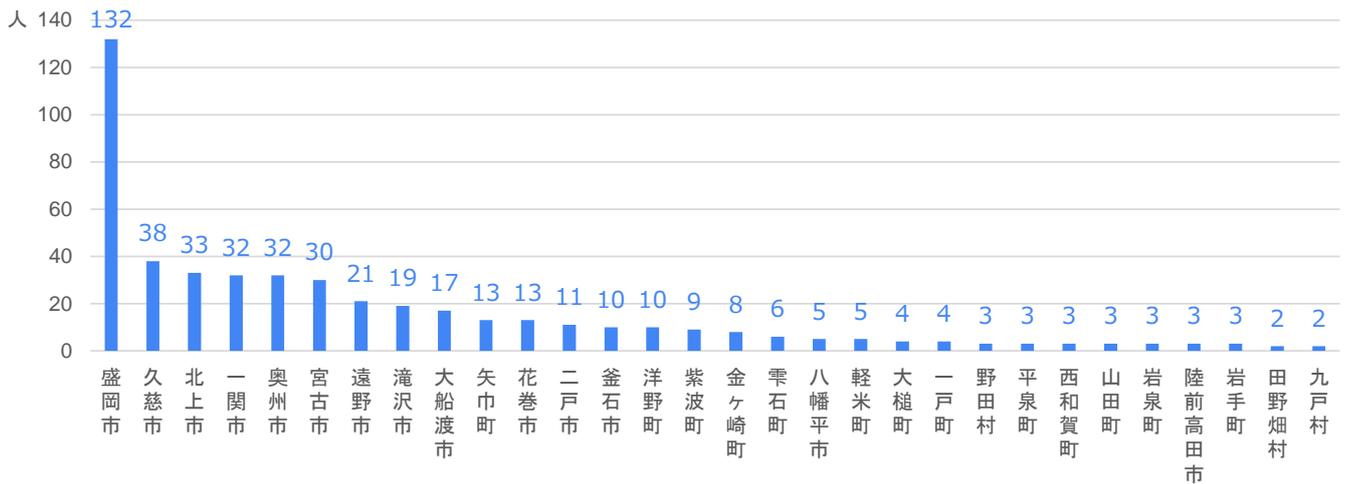
食物アレルギーオンライン講演会 in 岩手

公開日 : 2021年9月1日(水)～2021年9月10日(金)
 2021年9月20日(月)～2021年9月30日(木)
 2022年1月1日(土)～2022年1月31日(月) ※再公開

申込者数 : 478名
 視聴回数 : 1639回
 アンケート回答者数 : 87名
 講師 :

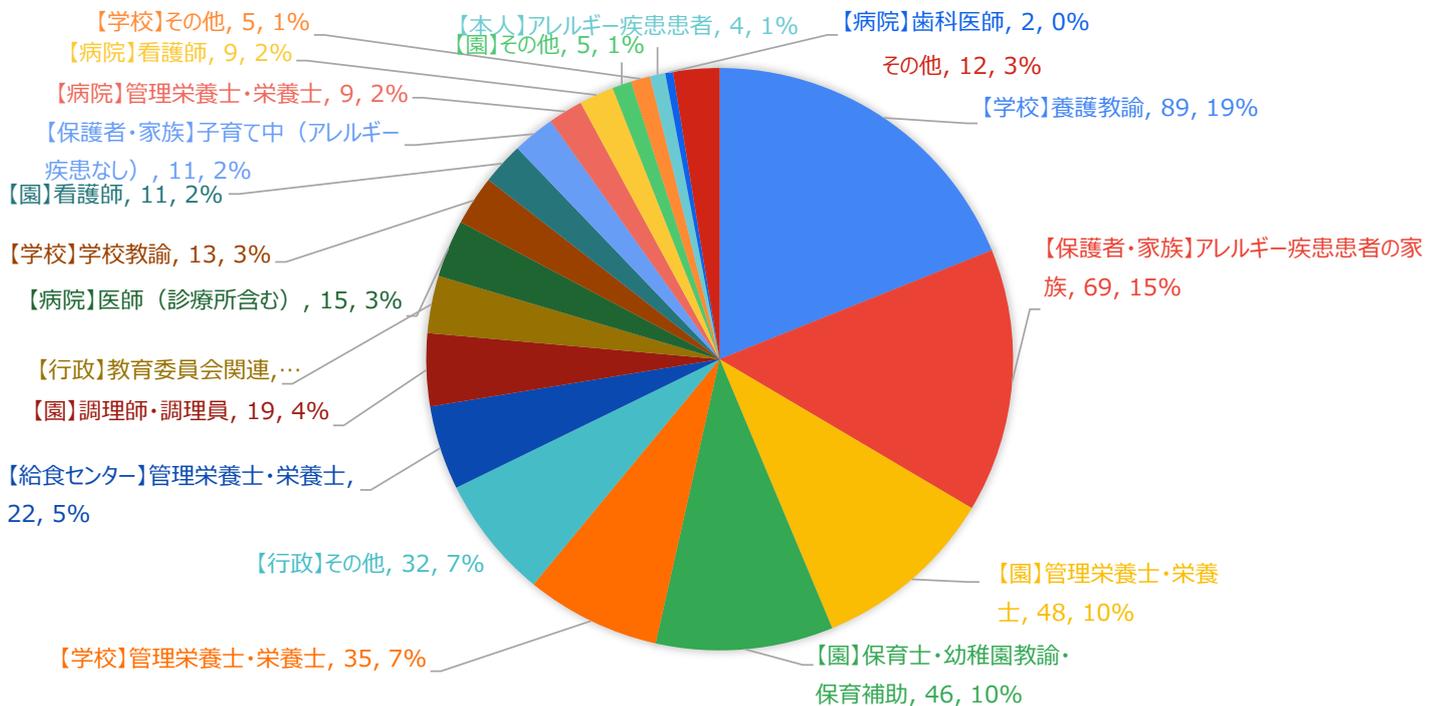
第1話	国立病院機構	盛岡医療センター	副院長	佐々木美香 氏
第2話	国立病院機構	盛岡医療センター	小児科医長	佐々木朋子 氏
第3話	国立病院機構	盛岡医療センター	管理栄養士	村里智子 氏
第4話	国立病院機構	盛岡医療センター	看護師	山崎洋子 氏
	国立病院機構	盛岡医療センター	看護師	根岸直子 氏
実例発表	いわてアレルギーの会		副代表	日當ます美 氏
QA	国立病院機構	盛岡医療センター	副院長	佐々木美香 氏

① お住まいの市町村

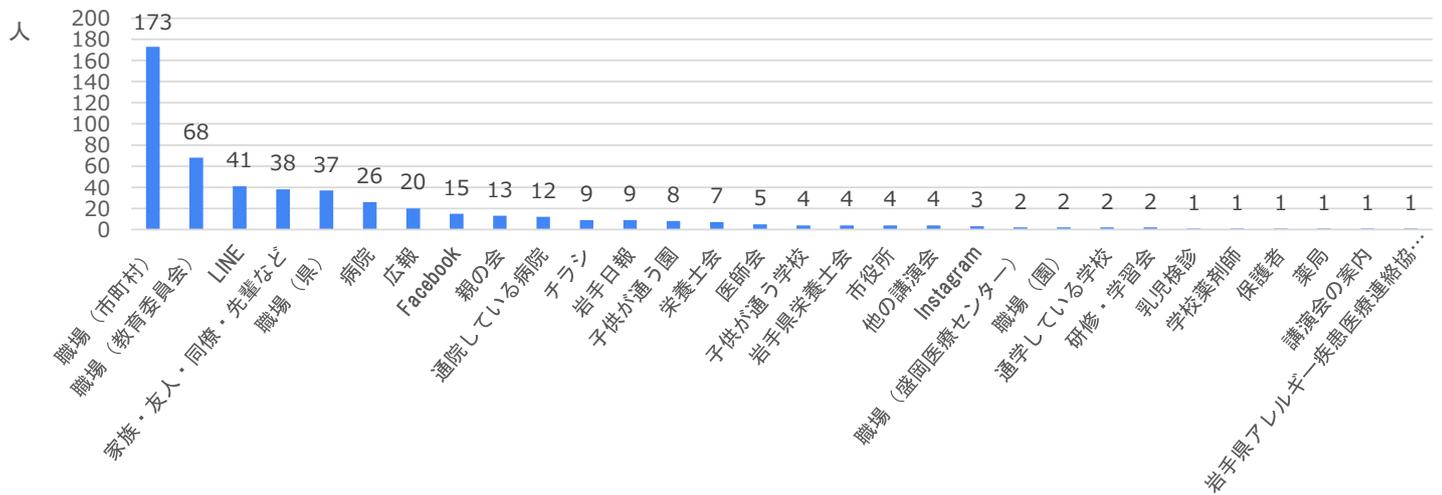


② 職業またはアレルギー患者との関係

回答, 人数, 割合

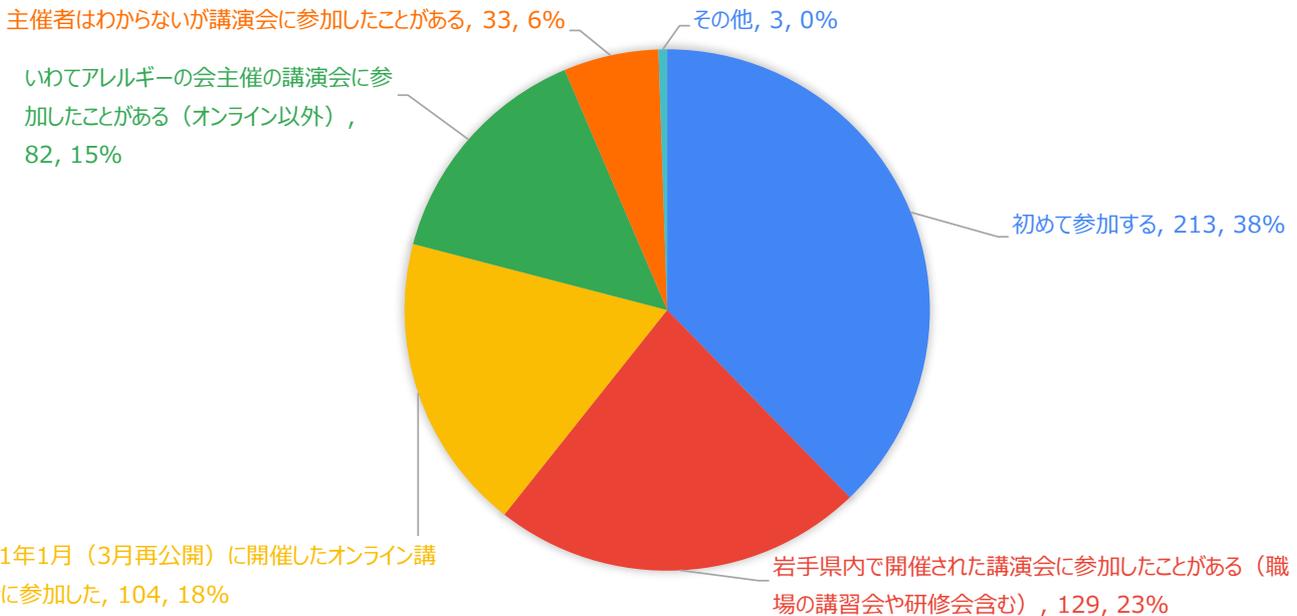


③ 今回の講演会を何で知りましたか？



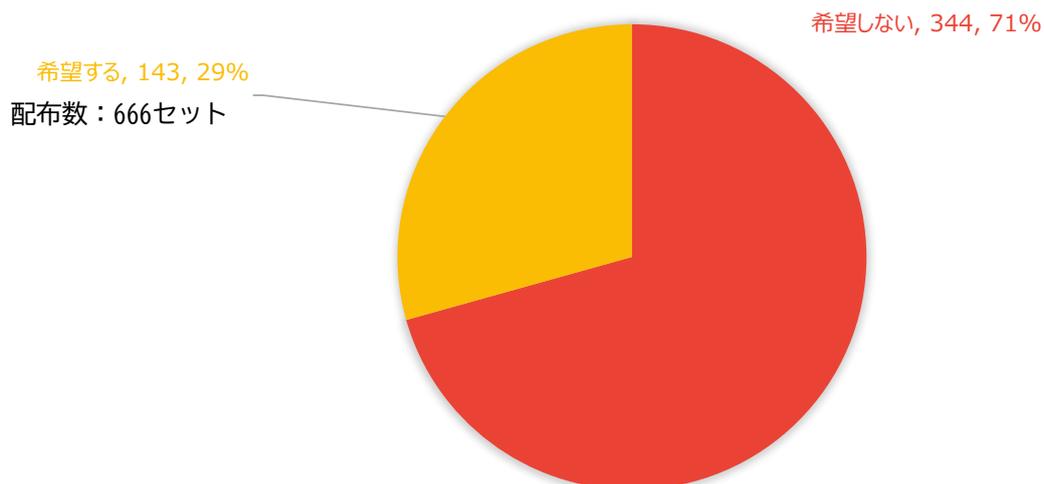
④ 食物アレルギー講演会に参加されたことはありますか？

回答, 人数, 割合

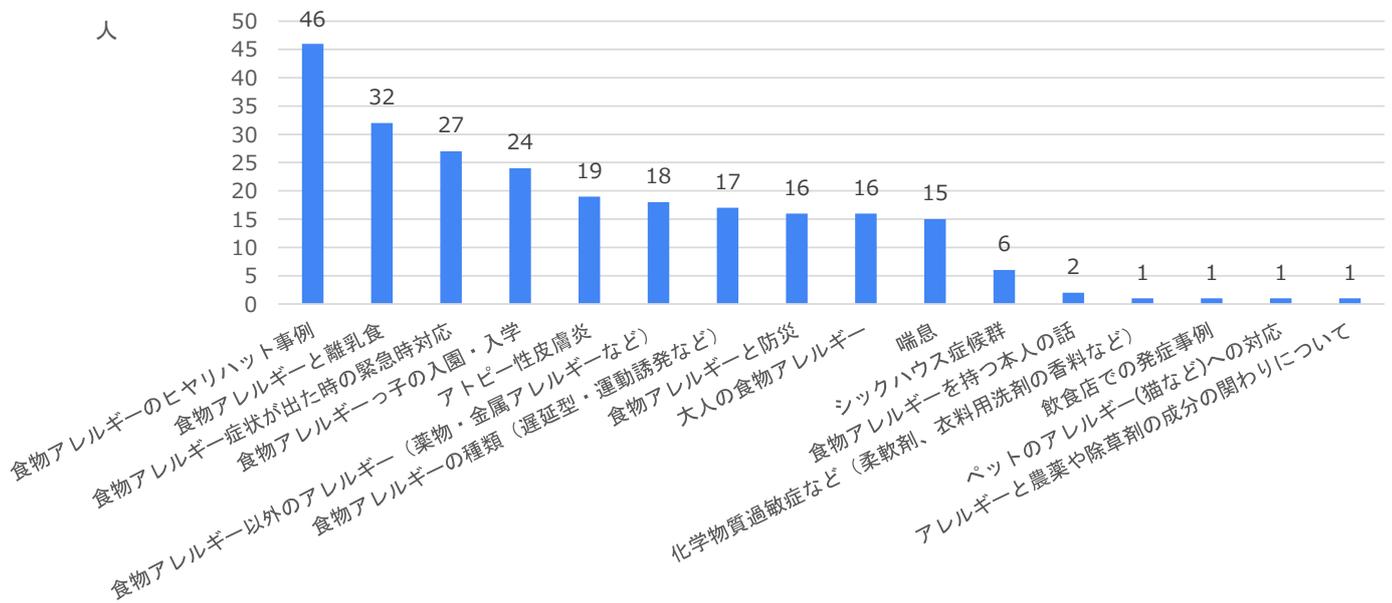


⑤ 食物アレルギーサインプレートセットを希望しますか？

回答, 人数, 割合



⑥ 今後、講演会で取り上げてほしいテーマはありますか？



⑦ 講演会のご感想をお聞かせください

- 盛りだくさんでとても勉強になりました。
- ポイントをまとめてご講話いただいたのでわかりやすかったです。
- 食物アレルギー児への対応や保護者への助言など参考になった。また、ナッツなどの分類もいままで曖昧な部分があったが、明確に出来て良かった。
- 小学生と保育園児の子どもが食物アレルギーがあります。学校でも保育園でも、よくしていただき、対応していただいておりますが、私自身も常に勉強しておかなければと思い、講演会を視聴させていただきました。指導管理指導表のことや、最後の事例発表は大変参考になりました。そして、やはり、本人や保護者と先生だけではなく、お友達や社会全体で、アレルギー疾患について理解し、常に意識されることが理想だなと感じました。そういう社会になって欲しいと思います。そして、アレルギー児の保護者として、自分の子ども以外のアレルギー疾患のあり方のために出来ることを、1つずつでも行動していきたいと思っています。
- 拝聴させて頂きありがとうございました。私の長男はもう成人しておりますが、アトピーでIgE20000 を超える幼少期があり一年半、院内学級に通いました。現在は教師をしていて数値は3000あります。親とし夫婦喧嘩をしながらも、横浜のアレルギー学会に行ったことを思い出しました。治るものではないのに、その頃は治さなきゃいけないという強迫観念がありました。全国から集う親たちのアレルギーサークルでは、様々なインチキ治療病院が人気になっていました。私も県外あちこちの病院へ行って大金を散財したこと、かえって息子を苦しい目に逢わせてしまった反省を今もしています。現在、主任児童委員という子供専任の民生委員をしています。アレルギー児の話は保育園や小中学校でも耳にしますが、親の自己流、ガイドラインに添った治療を悪とみなしている話を聞くと残念になります。先生もそれ以上親に言えないと言っていました。少しでも耳に 目に留まるような活動のお手伝いが出来ればと思いました。ありがとうございました
- とてもわかりやすい内容で、色々なアレルギーのお子さんが増えているのでやはりきちんと受診をしていただき、対応策を共有していかなければならないことがわかりました。またぜひ参加したいと思います！ぜひ次回も案内いただければと思います！
- リスクマネジメントおよびクライシスマネジメントの重要性を再確認しました。緊急時のエピペン・AED使用を含めた組織的対応を定期的に確認していきたいと思います。
- 日當さんのお話は、これまでの経過がよくわかりました。今後、小学校入学を控えているアレルギー児を持つ保護者の方にとっても参考になると思います。
- 年々、食物アレルギーと申告される保護者が増えていますが、多くは乳幼児期の症状であったり、保護者の自己判断で制限していることが多く、医師の指導を受けている方はごく一部です。必要以上に食事を制限するのは、児童生徒の発達にとって望ましいことではありません。講演では、食べられる範囲を広げて行くことが話されていました。今回の講演内容や頂いた食物サインプレートセットを活用し、保護者との相談していきたいと思っています。また、今回の講演内容を職場内で共有し、他のアレルギー疾患に対しても理解を深め、校内体制を整えて行きたいと思っています。貴重な講演を伺うことができました。ありがとうございました。
- 佐々木美香先生のお話は、知らなかった事もたくさんあって、勉強になりました！日當さんのお話は、具体的で分かりやすかったです！重度の食物アレルギーのお子さんを育てるって大変だと思いました。
- とても参考になりました。
- とても参考になりました
- 沢山の方にこの話を聞いていただきたいです。

- ・ 事例発表良かったです。アレルギー対応は園全体で取り組みをしなければ継続できない事を実感しました。施設長むけに講演をお願いします。
- ・ アレルギーの研修会事体が少ないのでとても良かった。新しい情報も聞くことが出いたので良かったです
- ・ どの講義もわかりやすく勉強になった。特に最後の実戦発表は、学校におけるアレルギー対応のあり方について考えさせられました。
- ・ とても勉強になりました。実践例は、実際の工夫をお話になっていて、職場でもまねできそうなことだったので、まねっこして事故防止につなげていきたいと思いました。
- ・ 様々な立場からお話があり、よくご準備されたスライドでわかりやすく、話すスピードもちょうど良かったです。医師の講演も難しい分野をわかりやすく解説してよかったです。実際のご家族の苦労も共有していただきありがとうございました。
- ・ 発作時の症状の種類が思っていたより多く、症状の程度、複合を表でチェックすることで私でも迷わず対処できそうです。
- ・ 開催お疲れ様でした。今後もよろしくお願い致します。
- ・ 大変勉強になる内容でした。
- ・ アレルギー疾患の基礎から、それぞれの役割まで幅広く学ばせて戴き、有難う御座いました
- ・ 参考になった。
- ・ 講演会では、学校におけるアレルギー疾患の対応について、理解を深めることができました。事例発表では、保護者の方の思いや願いをしっかりと受け止め、学校、給食センターが連携して対応することの大切さを再認識いたしました。事例発表の内容については、各校におけるアレルギー対応研修の際に全職員で視聴してほしいと思います。今回は、貴重な学びの場を設定していただき、誠に有難うございました。
- ・ 知らなかった内容等があり、非常に参考になりました。
- ・ 資料も見やすく、スムーズに研修を受けることができた。
- ・ 岩手県のお食アレルギーについて引っ張っていただいている先生がたからの講演はわかりやすく、また何度聞いても、新たな情報や振り返りができて勉強になります。また、今回は特に、事例発表された日當様のお話がアレルギー対応の実際を物語っており、心に強く残りました。本人や家族のことではなく、みんなで取り組んでいくことの重要性を改めて感じました。
- ・ 数日にわけて聴かせていただきました。
1, 花粉症と口腔アレルギーとの関連
2, 調理現場での作業工程(作業の単純化・単一化)
3, 重度のアレルギー者は揚げ油も使用不可
講演会ではこの3つが勉強になり、今後参考にさせていただきたいと思っています。今回はYouTubeでの講演会でしたが、何回も再生できとてもよかったです。しかしスマホで視聴していたので聞きづらかったです。
- ・ アレルギーのお子さんをもつ保護者の気持ちがよくわかった。
- ・ アレルギーのあるお子さんの親の話が聞けて、とても良かった。
- ・ アレルギーにかかわることについて、広くご講義いただき勉強になりました。ありがとうございました。本校での対応等に照らし合わせて参考にさせていただきます。
- ・ 施設と保護者との連携の大切さと難しさを改めて感じました。
- ・ どの内容も、分かりやすく、聞きやすかったです。
- ・ 保育園看護師をしています。最後の実例発表の中でお話ししていた「生きたマニュアルを作る」という所に改めて考えさせられました。アレルギーが出た際、職員により対応がばらばらであり、対応を見直さなければと考えていましたがなかなか進まず……。保護者が安心して子どもを預けられるように、そして子ども自身も安心して楽しく通えるようにマニュアルや対応を見直していきたいと思えます。また佐々木美香先生の内容もとても詳しくわかりやすく花粉症についてなど詳しく知ることができました。お忙しい中ありがとうございました。
- ・ 食物アレルギー以外のアレルギーのことも知ることができ、大変参考になりました。
- ・ アレルギー対応、緊急時の対応など再度確認できた。生活管理指導表のポイントなど理解出来た。事例発表も参考になった。
- ・ 基礎知識から対応まで幅広く学ぶことができ良かった。また、期間も長く何度も見返すことができたのでより理解が深まった。こんなにも日常生活の中や災害時にもアレルギーが関係しているとは思ってもみなかったもので、驚きと共に周囲の理解が大事なのがよく分かった。
- ・ 学童期に多い木の実とナッツアレルギーについて詳しく聞けたので良かったです。
食物アレルギーについてとアナフィラキシーを起こしたときの対応の仕方を改めて職員全員で確認したいと講演を聞いて感じました。
- ・ 求めているものの、生活管理指導表と一緒にアレルギー検査報告書を提出する家庭があります。その数値と指導表の内容があていないような時があって不思議に思っていたところでしたが、今回の講演会で理由がわかりました。アレルギー疾患や学校での対応もわかりやすかったです。ありがとうございました。

- アレルギーのことが解りやすくさらに勉強になりました。ありがとうございました。特に私は食物アレルギーと給食対応にとっても興味がありました。まだまだ当事者以外の理解が乏しいために、給食対応の困難さを感じます。行政がまず関心を持ち給食だけではなく災害時の対応に力を入れる必要があると思いました。実例演題の内容はとても関心深かったです。凄まじい経験をされたと伝わりました。貴重な経験を教えて頂きありがとうございました。アレルギー疾患に携わる医師、看護師、栄養士さんが支えてくださることは当事者にとって掛け替えのない力になると強く思います。
- 食物アレルギーの考え方やスキンケアの重要性、学校や保育園での対応など、改めて多くの関係者へ伝えていく必要があると感じた（自分の覚えていた認識が違っていた）。
- 私は学童保育所で勤務しています。学童ではおやつを出しているの今回、受講させてもらうことにしました。近年は100人を超える入所者数となり食物アレルギーの子も増えてきました。入所の際には必ずアレルギー調査票を提出してもらい、チェックをした上でおうちの方には詳細を聞いています。そして子ども本人がそれをどこまで理解しているかも確認しています。今回、受講してもう少し細かく、そして周囲の子どもの理解も深めた方がいい事を学びましたので、頂いたサインプレートやバッジも利用して即実践しようと思います。ありがとうございました。
- 第1話の先生の話が動画の講義でも、抑揚や話すペースがとても臨場感があり、何が重要か分かり易く、興味深く観させて頂きました。私の子供もアレルギーの検査ではアレルギーはみられませんが、アレルギー性鼻炎と言われており、これまで風邪を引いた時に、気管支拡張薬と、ステロイド薬の吸入薬をしたことが2度あったなかで、最近また喘鳴などの症状があり、吸入はこれからも必要だろうと言われた所でした。週に1回でも咳や軽微な発作があればコントロール不良と言うのもはっとさせられました。非発作時の気管支の炎症を抑え、コントロール不良とならないようしっかり吸入を続けていかなければ、と身にしみて分かりました。また、凸凹の皮膚にはたっぷりステロイド軟膏や、保湿剤をぬると言う話では、凸凹の上の湿疹部分に軟膏が付く必要があること、長期的なステロイド使用量を減らせること、なりより喘息や食物アレルギーを起こさないようアレルゲンを侵入させないツルツルスベスベの皮膚を保つことの重要性がよく分かりました。今は、育児休業中で2人の子供を育てながらの日々なので、ある程度の期間、動画を何度でもみられる研修はありがたかったです。今は、子育てにしっかり活かして、復帰後は看護師としても学んだことを活用していきたいです。貴重な講演ありがとうございました。
- 子供のために何ができるのかそのためになにをすればいいのか分かった
- 非常に勉強になりました。就学という時期にこのような知識を得られると保護者の方も為になると思うし、保育園側もおさえておくことは非常に有意義だと感じました。ぜひ、教育委員会などでもご視聴いただければ良いと感じました。
- 内容がとても充実しており、大変勉強になりました。実際に緊急時にどのように対応したらいいのかも具体的に述べられており、分かりやすかったです。また、視聴できる期間が長かったため、繰り返し観ることができたのも良かったです。
- 自分で自分のみを守ることの大切さと、回りの協力なしでは安心安全は無いことを改めて感じつつ、先生方の負担を思うと本当に頭が上がりません。
- 専門的な知識を勉強させて頂きました。
- 保育園ではアレルギーについてほぼ全職員が取り組んでいるのですが、小学校での対応について知ることがあまりないため、保護者の不安に寄り添えるように視聴しました。
- ユーチューブ配信の講演は空き時間を活用して数回に分けて見ることが出来、巻き戻すこともできるのでこれからもユーチューブ配信を増やしてほしいと感じました。実例発表はとても心に残りました。先生方と家族の連携が素晴らしいと思いました。
- 実践的な話を学べて参考になりました。オンラインで視聴できたため、特に聞きたいところを重点的に聞くことができてよかったです。
- 食物アレルギー対応について、多面的な内容での配信でしたので、今後のアレルギー対応の参考となるものでした。
- 今回の講演会の内容は、食物アレルギーについて凝縮されていたため、とてもわかりやすかったです。
- アレルギーを持つ子どもの就学後のイメージがよくでき、負荷試験などで通院する中で先生がお話していたことを、なぜそうなのかより深く理解できました。このような機会を設けていただき、本当にありがとうございました！携わってくださった全ての皆さまに感謝します。ありがとうございます。
- 学校対応、管理指導表について理解しやすかった。体験談を聞いてよかった
- 食物アレルギーの対応や、組織として取り組むことの大切さを再認識できる内容でした。どうもありがとうございました。いつでも視聴できるのも良かったです。
- 子供が小さく、会場で行っている講演会に行きづらかった。質問はできないけれど、今回のYouTube版とても素敵でした。ありがとうございます。
- 勤務先は保育園ですが、今回の講演を聞き、小学校での対応が保育園でも行っていけることだと学びました。また、保育園から小学校に上がる際に、親御さんの負担を少しでも減らし、スムーズにアレルギー対応を行っていくにはどのように連携をとっていけば良いのか考えておく必要があると感じました。ありがとうございました。
- 貴重なご講演、ありがとうございました。学校生活におけるアレルギーの対応方法を知ることができました。
- 医師だけでなく、看護師の方や栄養士の方、保護者のお話も聞いて、具体的にどのようにすればよいか、考えながら聞くことができた。現在、食物アレルギー対応の児童はいないが、突然対応が必要になることもある。もしもに備えていきたいと思った。オンラインで開催されたことにより、聞きたいところを再度見ることができたのもよかった。ありがとうございました。

- この度は講演会を開催してくださいまして誠にありがとうございます。拝見して本当によかったです。とてもわかりやすく、色々と準備が足りていないことを把握することができました。また、体験談等も伺うことができ、心強く感じました。私にはウルシ科とクルミ科のアレルギーを持つ娘がおり、来年小学校に入ります。佐々木美香先生に相談させて頂き、除去食をしています。幼稚園では生活管理指導表を提出し、園でも元々ナッツ類は給食で扱わないとのことで、娘は園で一度も症状が出たことがなく、小学校も大丈夫だろうとどこか安心していました。しかし、幼稚園は保育現場、小学校は教育現場。年齢と共に行動範囲は広がり、一人ひとり細やかに見ることは難しい。その違いに気がついていませんでした。いつ娘に症状が出てもおかしくないと感じました。娘の今の状態、食べられるものの有無など再度チェックして、また、先生に相談させて頂き、安心して過ごすことができるよう準備をしたいと思えます。ありがとうございました。
- アレルギー疾患患者の保護者でもあり、児童施設で栄養士として働いているため、両方の立場から勉強させて頂きました。専門医での正しい診断、共通理解は本当に大切だと感じました。
- 時間が取れず、事例発表など聞けなりましたが、小児科の先生のお話はわかりやすく、改めてアレルギーについて学ぶことができました。また、ナッツ類はすべて同じなのだと思っていたので、木の実と落花生(草)で違うことがわかった。対応の仕方では、症状別についての対応がわかりやすかったです。
- 資料がとても内容が充実していてわかりやすく感謝しております。何回も講演を聞きながら資料と照らし合わせました。佐々木美香先生始め、講師の先生方本当にありがとうございました。とてもわかりやすい話し方で勉強になりました。今回の貴重な機会をいただいた事を、今後活かしていきたいと思っております。
- 最後のアレルギー児のお母さんの報告がとても感動しました。全体的な講義は新しい情報はないなと思いましたし、3時間半以上は長すぎると思いました。
- それぞれの専門の立場からのお話がきけて良かったです。最新の情報もためになりました。
- いただいた情報を増刷し教職員に配布しましたが、当事者意識が少ないためか、視聴数を増やすことが出来ませんでした。卵解除後の運動誘発アナフィラキシーに関する保護者さまの話は、とても興味深く拝聴しました。本校でも卵解除後、昼休みに保健室で経過観察をした児童が以前いました。当該児童は遊びたかったと思いますが、保護者と相談し念には念を入れての対応をして良かったのかな、と考えました。アレルギーをもっている人を取り巻く環境や理解は、格段に進歩していると思います。これも保護者会の皆様の活動の成果だと思います。自分の娘はくるみアレルギーでしたが、現在のような対応は少なかったと記憶しています。しかし、教育現場での教育はまだまだと痛感しています。小学生中学生が自他のことをわかり、共学していくことが大切と思っています。
- とてもわかりやすい講義で興味深く拝見させて頂きました。2才の長女が気管支喘息の治療中で、次女が5ヶ月で補完食を始めている所です。前回9月のときは主に長女の喘息のことを気にかけて聞き、次女についてはスキンケアに力を入れてアレルギー予防をしよう意識してきました。今回は補完食(離乳食)を始めたタイミングであり、経口免疫寛容について注視して聞きました。2019年から卵の開始時期の変更があったことについて、遅らせることでアレルギーを予防出来るわけではないという話を聞きましたが、経口免疫寛容の話から早いうちからアレルギーを起こしやすい食品も少しずつ積極的に食べさせたほうがアレルギー予防になり得るのだろうと考えてました。花粉関連のアレルギー話では、バラ科の美味しい食べ物が食べられないのが……というお話から、そのような食材も早くから食べさせておくことと花粉症の予防にもなり得るのではないかと考えて食べさせるようにしました。また、たんぱく質がアミノ酸まで分解されずに、ペプチドのまま腸管に達すると免疫寛容がおこるから、赤ちゃんの消化機能が未熟なうちに色んなものを食べさせることが大事ということかなと解釈しました。この解釈があっているかは分からないし、実験的な形かも知れないけれど、よく見る離乳食スケジュールよりもアレルギーを起こしやすい食品も含め色んなものを積極的に食べさせるようにしています。自分の子供だから出来ることだし、少しでもアレルギー予防をしたいと興味深く聞きました。また、前回の動画をみてから2才の長女のステロイドやインターールのUSNを少しでも精度高くやることを意識しました。また、いつも咳をしているとそれに慣れてしまいがちな所、週に1回でも咳などの症状があってはコントロール不良という言葉が心に残っており、咳などの日頃の生活日誌の記録をより具体的に(朝の咳はカウント、発作時は吸気呼気のバランスやどんな喘鳴かなど)するように気を付けています。また、アレルギー検査(IgE)ではアレルゲンは出なかったが、鼻水の検査で好酸球が多かったなかで、何度も風邪を引いて発作が2度あり気管支喘息とは言われていませんが喘息の治療をしている所です。前回の質問に回答して頂いてとても感激しました。アレルギーがなくても書いてしまいましたが、鼻水の検査で好酸球が多かったことからアレルギー体質があるようなので、より気を引き締めて喘息コントロールをしたいと思いました。また、やはり風邪予防も重要だと再確認しました。ご回答ありがとうございました。時期を変えて話を聞くと、子供の状況の変化から新たな目で聞き新しい発見があり、とても興味深く勉強になりました。また定期的に配信をして頂きたいです。また、2才の長女のときに離乳食のガイドラインが改定されたり、2014年の成育医療センターの研究からスキンケアと言われるようになったと思いますが、2年前より、アレルギー予防、スキンケア、補完食(離乳食)の指導や治療の精度が高くなっているを実際に感じるの、その辺りの情報を盛り込んで欲しいです。今日からまた気持ちを引き締めて、喘息コントロールとアレルギー予防に取り組みたいです。ありがとうございました。
- 今回の公演では、質問事項にこたえてくださり、同じ悩みについては解決できました。
- アレルギーに対して漠然としか知らなかったが、どうして起こるのか、対応方法など自分と知っている知識と知らなかった知識とが重なってアレルギーに対しての知識を深めることができました。
- わかりやすく大変参考になりました。
- 食物アレルギーを持った児童の入学に際した準備について学ぶことができました。また、アレルギー発症時の注意点や対応について詳しく知ることができました。保護者へのアレルギー対応説明の際には、ぜひ参考にさせていただきたいと思えます。
- アレルギーについてたくさんの事を学ぶことができ、とても勉強になりました。

- 再公開ありがとうございました。最後に追加された質問への回答では、多くの質問が学校などの施設関係者から出されていることを知りました。また、1つ1つ先生からコメントをいただいたことで、自分が気づけなかった事柄についても気がつけました。美香先生に診察いただき、アレルギーがいくらか軽くなったため近所の病院へフォロー先を移したわけですが、うーんと不安になることもありますので、何かのときはアレルギーポータルを利用させていただきたいと存じます。引き続きどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。
- 説明がわかりやすく勉強になった。
- 時代や年代によってアレルゲンも変わってきたり、同じアレルゲンでも食品によって含まれる量が違ったり、ナッツ類など大まかな種類は同じでも科が全然違ったり等、難しいことが多いですがこれからも研修会に参加して学んでいきたいです。ありがとうございました。
- アレルギーの基礎知識を丁寧にわかりやすく解説され、アレルギーについて再復習が出来てよかった。また、学校での対応の公演では、本校での現在のアレルギー対応のチェックをする良い機会になった。
- 園や学校からの質問に佐々木美香先生が詳しくご回答くださり、それを視聴出来たことが大変勉強になりました。これまでの対応等を見直す機会となりました。貴重な資料を配付して頂きありがとうございました。

⑧ 食物アレルギー患者と関わる中、仕事や日常生活で、疑問に思うことや困っていることをお聞かせください。

- 全職員で研修を年度始めに行なっているが、短時間で効果の高い研修をどのように設定すれば良いのか悩みます。
- 魚アレルギーが増えているが、通院している病院で加工している食品（ツナや練り製品）ではアレルギーを起こさないとされたようだが提供に不安を感じる。（家庭で未摂取）0歳児など摂取してほしい食品をなかなか家庭で試してくれない。（園任せ）
- 食物アレルギー自体を知らない方も多く、好き嫌いや、わがままと思われることがある。アレルギー源の食品を勧められて、その場かぎりの方に断るのも申し訳ないと思ひ、受け取ったりするが、子ども本人には「食べられないからね」と言っているが、その対応の仕方が、果たして合っているのか悩む。
- 案外子供の精神は強いこと、親の方が日々右往左往している印象があり。学校は まだまだアレルギーに対して認知不足な面がある。ガイドラインに添った勉強をしっかりしているお母さんに出会うと 尊敬します。またこういった活動をされているお母さんには頭が下がります。
- 血液検査では現れないものの、反応して蕁麻疹などが出る子もいます。受診をお願いしづらいです。また、皮膚状態が悪いとアレルギーにつながる事が保護者の方に理解してもらえず、しづしづ受診していただいています。また受診したとしても、園でのみスキンケアをしているので、休み明けは肌がボロボロです。保護者の意識付けについてどうしたらいいのでしょうか。
- 定期的に医師の診断を受けて欲しいです。赤ちゃんの時にアレルギーだったからと、そのまま申請される保護者が多いので。
- 管理指導表をださず、調査にはアレルギーありと回答するが、食べていたりして、わけがわからない例があること。
- 結構重症なアレルギーの子が負荷試験を経て少しずつ食べることが出来た様子を見ると、負荷試験の重要性を感じます。
- 解除になる位卵とか乳製品を摂取しているのに自宅では卵や乳製品を複数回食べたなら解除申請の用紙を提出して下さいと話をしているのに出してこず除去が続いたままのケースもあります。保護者は本当に解除して症状が出ないのか不安に思っているようですが、園の栄養士としてどのような声かけがよいのか悩んでいます。また今まで対応したことのない小麦アレルギーの子どもの受け入れを施設の状況でこれ以上の対応は不可能でことわざるを得ない状況です。どのように対応したらよいか日々自問自答しています。
- 給食でどこまでアレルギー対応するべきか、家庭での対応と保育園との違いなど
- 管理指導表にのっていないなくても、除去をお願いしてくる家庭。除去解除になっているのにまだ除去をのぞんでくる。病院からは特に指導がないので、どんなものかと悩みます
- てんかんの子は、アレルギー疾患や喘息の合併が多いです。抗アレルギー薬や抗ヒスタミン薬はけいれんを誘発することを、小児科医は浸透していると思いますが、皮膚科や内科医も認識していただけるといいと思うことがあります。
- 接する機会はほぼ無いのですが、たまに、アトピー性皮膚炎と思われる子に対し、保護者の方が思春期の肌荒れと市販のスキンケアをさせているところを見かけます。その場合、何て声をかけたら良いのでしょうか？
- アレルギーがあることを周りに知らせる大切さはわかりますし、その通りだと思いますが、日常誰でも手にすることのできる物に命を奪われる可能性があり、知られることで悪意の対象にされないか心配です。（今のところ自分の子供にはありませんが、学校でのいじめなど）病院やアレルギーに理解の有る大人が多めにいる集まりではアレルギープレートを着けますが、それ以外の場所や子供が中心に過ごす場所では迷います。
- 開業医の先生方にもご協力いただいて、広い岩手でも医療の均てんが進めば良いなと思っています。
- クルミが特定原材料になりますが、行政によりペカンナッツもクルミに含まれることが広報されることに期待します
- 給食を食べてのお昼寝後にじんましんが発症する子があるので、その対応に困る。
- 施設の設定等に限界があり、対応できないことがある。アレルギーの子どもの安全を第一に考えてしまうので保護者の要望に応えることが難しい。施設長と管理栄養士と悩む毎日です…
- 困っているというか、いざという時、冷静に対応できるか、心配です。

- アレルギー様症状が見られたとき、写真を撮り時間経過とともに症状をかき、食事内容などと一緒に保護者に持たせて病院の受診を進めます。病院側として、保育園や学校で症状が出たあとの診察する場合どのような情報を持たせたらよいでしょうか？上記のような対応でよいでしょうか？
- 講演の内容の中で、卵・乳・小麦・軽度のナッツアレルギー患者には負荷試験が有効とありましたが、その他のアレルギー(果物やエビ・カニ等)の方に負荷試験は進めない方がよいのでしょうか？
- 初めてアレルギーの食事に関わる仕事に就いて、具体的にどのような事に気をつけて調理したらよいか、やっていることが大丈夫なのか不安に思うところはあります。
- 個人的なことになりますが、私の一卵性双生児の息子(支援学校中学部1年)は指定難病グルコーストランスポーター1異常症という病気です。完治はなく唯一の治療法がケトン食という食事療法です。ケトン食は脂質を多く摂り糖質を制限する必要があります。ケトン食を始めて9年目になります。糖質を制限するため白米、パン、ほとんどのお菓子などありとあらゆる食品に制限があります(ただ、食物アレルギーと大きく違うのは誤食によって命に関わる重大な事態にはならないです)。当初は、まず脂質・たんぱく質・糖質を計算しながら献立を決め全ての食材をg単位で軽量し調理していました。現在私はだいぶ食事作りにも慣れ、良い意味で適当さも覚え、四六時中息子たちの食事のことで頭がいっぱいということはありませんでした。さらに、ネットで糖質オフの食品食材、ローソンの低糖質の商品が豊富になり随分助かっています。現在の職場に勤めるようになってからアレルギーについて深く知るようになりました。その中でも食物アレルギーのお子さん、親御さんに関わる中で食べたいものを自由に食べさせることができないという点で共通の悩みを抱えていると痛感しました。当事者でなければわからない苦しみや辛さがあります。私が食事療法を続ける中で一番孤立感を感じました。自分で献立をたて、調理し、息子の体調が少しでも悪いと自分が作った食事が悪かったのかもしれないと自分を責めました。きっと食物アレルギーを持つ方も同じではないでしょうか。ただ、親はとにかくやるしかないという気持ちで頑張るし踏ん張れます。食べるもので子供に不自由な思いをさせたくないし、可能な限り子供の満足感を目指します。一方、給食はやはりハードルが高いです。我が家の場合、昨年給食対応の希望をダメもとで出しました。関係機関の方々が集まり会議をしてくださいましたが結果は個別対応はできないという結果でした。給食は国、県、町の指針がありとにかく安全第一。そして、設備と人員の問題があるということでした。併せてアレルギー対応もしていないとのこと。ただ、先生方の尽力があり食べられる給食(例えばおかずと汁物)と持ち込み食(大豆米、ケトニア、代替品)を認めて頂きハイブリッドで昨年開始させてもらうことができました。それまではずっとお弁当持参の日々でした。給食が始まって一番印象的だったのは息子たちの反応でした。目をキラキラさせて毎日給食の献立を聞いてきました。先生からもとても嬉しそうに食べていて、食べる意欲がすごいですと教えてもらいました。この時に思ったのが、いくら愛情込めて手作りして同じようなメニューでお弁当を作っても息子たちの心の満足は得られてなかったと感じました。みんなと同じ食器で同じメニューを食べれるということでもか得られない気持ちの満足感があるのだと思いました。この経験で、制限がある子供にとって給食は気持ちの満足感を得るために改めて必要だと感じました。アレルギーのために給食が食べられない子供たちのためにできることを考えたいです。命に関わるアレルギー対応の給食は決して簡単ではないと思います。でも本当にアレルギー対応はできないのか、せめて月1回いえ、年1回でも7大アレルギーフリー(できれば20品目)の食材でみんなが同じ給食を食べられないか。まずは、多くの人に知ってもらう、そして当事者は諦めないで行政に働きかける必要があります。ただ、当事者はすでに諦めてしまっていたり働きかける方法がわからないということがあると思います。声を上げれば何か変わるかもしれない。声を上げなければ何もかわらない。そこは、私自身看護を通してできることを探してみようと思います。アレルギーに関して、一人でも多くみんなが知ることで当事者を孤立させないし、いじめの種にさせない。災害時にも慌てない。アレルギー対応の給食を取り入れることは何よりも子供たちの食育につながるのではないかと思います。アレルギーは学べば学ぶほど奥が深いと感じます。一つ間違えば命に関わりますが、きちんと理解をすれば不必要な制限がなくなる。でもやっぱり怖いと感じるかもです。いろんな立場の人が少しずつ前に進むことで5年、10年後の給食事情は変わっているかもしれないですね。
- アレルギーがなくても、何度も風邪を引くなどして、気管支の慢性的な炎症を起こすことで、気管支喘息を発症することはあるのか、疑問に思う。
- やはり、緊急時の対応についてです。保育士の先生方にも園内研修を開きたいのですが、忙しくその時間がとれないとの事で、書面で伝えるのみになっています。実際にショック等がおきたときに、きちんと対応できるか不安です。
- 成長するにつれだんだん卵が食べられるようになってきたと共に、学童に行かなくなり家で留守番をする機会が増えたことによって、目の行き届かないところでの飲食が怖いです。菓子の場所も、症状が出たときの対応のしかたも何度も伝えてはいますが、状況が常と同じとも限らず、あるいは食べていないのにといったような原因不明のとき、さらに症状が一気に重くなるようなことが万が一あったらと思うと、共働きの限界を感じます。でも気をつけること、誰かに連絡、助けを求めること以外に、どうすることもできません。
- 生活管理指導表を保護者の話と検査結果のみで発行し、一年更新とされる場合があります。保護者にアレルギーの専門の先生をおすすめするのですが、掛かり付けの先生から変えられない人が多く、再評価の機会もほとんどないまま、一年更新をするお子さんが散見されています。食べたいのに食べられないお子さんはストレスが大きくなり、精神的なフォローも必要になってくるのだとおもいます。
- 疑問や困り事を出来るだけ少なくするために、保護者との連絡、確認を綿密にやっていくことが大切だと思って取り組んでいます。
- 学校の給食は事前に子どもたちにアレルギーを周知しているが、ついすっかり忘れて食べてしまう子どもがいる。
- 急な外食など低アレルギー対応の店舗などを毎回探すのが大変で、急な対応は難しく同じ場所になったり家族で諦めることが多いので、県内で低アレルギーの提供をしている飲食店のまとめサイトなどがあったり、混雑時にお店の人に聞かなくてもアレルギー表示がレジ前などにわかりやすく掲示や設置されていたら、もっと気軽に外食したりできるのになあとと思います。
- 醤油はダメだけど麺つゆはok、小麦はダメだけどパンやうどんはok、タンパク源は豚肉しか食べられずと食べられる食品が極端に少なく、調味料にも制約があり、米もダメなので米飯の時は主食を家から持ってきてもらっています。管理指導表にはそこも対応しろと主治医からの指示がありますが、キャバオーバーで事故につながりかねないの保護者にはご理解願っているところです。加えて、食形態もミキサーをかけなければならないので、かなり神経を使わなければなりません。学校で病院並みの対応を求められても困ります。経口負荷試験できちんと検査してもらいたいのですが・・・。
- 保護者の立場からは、自宅で経口免疫療法を行っているが、子どもが嫌がりなかなか思うように進まない。仕事上は、専門医での正しい診断がされていない現状が多くみられる。
- 今のところはないが、エピペンを持っている子はまだないが、今後、エピペンを持つくらいのアレルギーの子が入所した時の対応の仕方。
- 特に生活管理指導表の解釈に疑問が生じることがあります。

- うずら卵と鶏卵はセットで除去する必要があるのか。年度途中の解除は診断書は必要か？
- 喘息コントロールでステロイドUSNをしていましたが、暫く発作がなくて肺雑音がない状況が続き、ステロイドを日に2回から1回に変え、その後も発作や肺雑音がないなかで、ステロイドからインターールに変えた後に、風邪を引いていないときでも咳が無いことが無くなってきたなと思っていたところ、風邪を引き大寒波がきたときに発作を起こしてしまいました。やはり、ステロイド吸入を辞めてから悪化していたのだなと思いました。いまは、朝インターール、晩ステロイドのUSNをしています。つぎ、状況がよくてステロイド吸入からインターールに変えましょう（多分先生はどちらもやりたいけど2歳児には大変すぎるという考え）と話しが出た歳は、大変だけど両方やるとか、朝晩の2回を頑張りますと話して出来るだけやりたいと思います。また、ステロイドを辞めてから咳が増えたと感じたことを、先生にしっかり伝えることも必要だったなと反省しました。聴診などで悪化は無いと思うと言われると安心してしまいがちですが、診察時以外の日常を記録して口頭で気がつく事を先生に伝えて、治療を相談したいと思います。疑問に思うことは、吸入はステロイドを辞めてインターールだけ（内服では抗ロイコトリエンなどをして）で長期管理をする状況はどんな状況なのか知りたいです。でも本当はステロイドもやりたいけど2歳児には大変だからなのかもしれないです。主治医の先生とにしっかり聞いてみます。独り言のような文章ですみません。また、長文ですみません。
- 医師によって判断が異なる。別の小児科受診を進めることも立場できに難しい。
- 現在、保育園では除去食で対応してもらえているがそれでも、たまになにかしらの原因でアレルギー症状が発生することがあって連絡をもらうが病院にいったもその頃には症状が落ち着いてたりして、その原因がはっきり診断されることがなくウヤムヤになってる状況でどうしたらいいかわからない。（そのたびにアレルギーの可能性のある食べ物を除去してます）
- アレルギー患者の気持ち、困り感を理解すること
- 二男の肌荒れがよくなったり悪くなったり。急に悪くなるときもあり、原因がよくわからない。でも血液のアレルギー検査ではスギ以外ほぼ無し。日常生活でも好き嫌いがほとんどなく食べることができている。こういう場合、何回もアレルギー検査をして原因を特定すべきか、軽度であればあまり気にせず過ごすべきか、悩みます。
- あまりおおごとにはせず周囲の理解と協力を得られるように情報共有するにはどのようにするのがいいのか悩む。

⑨ 学校生活管理指導表について、提出状況や困っていることなど、お気づきの点などありましたらお聞かせください。

- きちんと提出いただいているので安心していますが、意図的に提出しない、受診をしたがらない保護者がいたら困ると思いました。
- 経口負荷試験を行っていないので、行う必要があるなら、来年度に向けての際は、お願いしてみようと思った。
- 保育園長から、給食のチェック体制が複数していても抜け落ちることがあり危機一髪だった経験談を聞きました。そして本音を言うと弁当持参してくれると安心すると。また地区によって給食センターの意識、配慮のばらつきがあることを知りました。全学校でこの講演を聴いて欲しいです。
- アトピーと乾燥肌の違いがわかりませんが、耳切れがありますし、肌はガサガサな子がいます。指導表には、皮膚のことが記載ないものの園で毎日スキンケアをしています。与薬依頼があるので、毎日スキンケアしていますが、塗布薬は、基本1日2回ではないでしょうか？
- 医師によっては、保護者の申請だけで診断書を書いているのではないかとすることがあります。保護者も血液検査だけでアレルゲンを特定しないで負荷試験をやって欲しいです。
- 学校での配慮・管理が必要であるかの判断は学校では難しいため、主治医より保護者へ説明し、提出していただけるような方向性はありますでしょうか。
- 受診を渋る親が毎年必ずいる。仕事を休めないというのが、経済的に困窮している家庭があるため強めに要求できないときがある。
- 食物負荷試験を病院でしてくれないで継続ばかりの印鑑をおしてくる
- 4月前の提出をお願いしているのですが、なかなか家庭の都合でまちまち。就学前にリズムを作りたいのですが指導表はお金が発生するようで無理には言えません
- 主治医なのでときどき記載するのですが、学校からアレルギー専門医にきちんと書いてもらってくるように言われた、と返されることがあります。例えばこのような講演を聞いた証明があれば、一般小児科医でも記載してよいことにはどうでしょうか。すべての学校がそのような対応ではないのかもしれませんが。
- 園から指導表を持たせて記入して貰っているが、小児科で出して貰えないのでしょうか？
- 主治医の先生によって、除去の診断が異なる。生活管理指導表の書き方の様々あり理解しにくい部分がある。
- 医師に直接書いてもらう必要性に迫られるので、病院受診をすすめやすくなったように感じます。
- 学校で対応しない原因食品についても管理指導表の提出を求めるということについて、保護者の方にご理解いただけないことがあります。校外活動や調理実習などで使用される食材であれば説明しやすいのですが、生卵や魚卵など、明らかに使用しない食材についてはご理解いただけないことが多いと感じています。そういった際の説明の仕方などを教えていただきたいです。
- アレルギーに関わる仕事に就いて初めて生活管理指導表を知った。アレルギーを持つ子の保護者は知っているのかもしれないが、よくこれを食べたら蕁麻疹が出たから給食で出さないでほしい、と言う保護者がいるが、生活管理指導表の提出が必要なことを保護者にもっと知ってもらう必要があるように思う。
- 毎年提出しなくてはいけないのかと確認されるのが困ります。

- ・ 次男の幼稚園入園時、長男が食物アレルギー持ちなこともあって、入園の書類に「卵とそばはゆっくり進めています。万が一、低加熱のものやそばがでるときは教えてください。但し、保育園(幼稚園入園前に預けていた保育園)でも給食はなにも除去せず、アレルギー反応もなく過ごしています」と記載したところ、いろいろと心配されてしまい、最終的に、なにかあった時は医師の診断をあおぐということを記載した書類を一筆提出するよう求められ、出しました。嘘つくなよと言われたようで少し気分が悪かったですが(笑)、しょうがないことかなとも思い。。逆に心配され過ぎてしまい、また、不安をおおってしまったようで、当時は、書かなければ良かったかなと思ったりもしました。実際のところ、離乳食後の血液検査で卵に若干の反応があったのですが、医師との話し合いでは、卵はちゃんと食べることができているため除去する必要はないし、管理指導表も出す必要はないということで提出しませんでした。いろいろと、次男にとってどうすることがベターだったか悩みます。
- ・ ほぼ、必要な方は提出してもらえています。
- ・ 適切な更新頻度はどのくらいなのでしょう。保育園の場合は、大抵六ヶ月～12か月が多く見られています。アレルギー症状の見られる頻度がほとんど無くなっていくにつれて、半年→一年と、頻度が少なくなっているのは把握しております。しかしながら、アレルギー専門の先生ではなく、掛かり付けの医師からの12か月の評価など、仕方がまちまちであることが、保護者も不安になるとおもいます。私たち保育園もこうした評価の頻度が低い上に、アレルギーが本当にあるのかわからないほどのお子さんが12か月除去になっているのをとても心苦しくなっており、子どもが食べられるようになるような指導ができるかかりつけ医が増えていくことを望んでおります。
- ・ 診断書の料金がかかるのは当然ではありますが、経済状況や家庭の考え方等様々な家庭がある中においては、提出していただく上での課題の一つであると思います。
- ・ 施設にわかりやすく、詳しく記入する工夫が必要、必要であれば何度か修正をして理解頂けるようにしている。
- ・ 上記のような、保護者の希望をそのまま書いてくる管理指導表もあり、どこまで対応すれば良いのか、対応できないでいると対応するようにと毎年同じことが書かれてきます。
- ・ 専門医での正しい診断を受けていない児童、生徒が多くみられる。
- ・ 利用していない。
- ・ 私は保育園・幼稚園生活管理指導表に関わる仕事をしておりますので、今回は回答を控えさせていただきます。保育園や幼稚園の方から問い合わせを頂き、対応に疑問を感じたりしたときは、どちらかにご相談させて頂いて宜しいのでしょうか。このことが、現在の困っていることです。
- ・ 医大と、盛岡病院は専門ですが、他の医療機関で、明らかにおかしいと思われる指導表が出たりして困っています。保護者に説明して、専門病院を受診してもらえる場合はいいですが、保護者がその医師を信じている場合、対応が難しいです。
- ・ 医師が間違っって記載することがあるが、勝手に直してはいけません。達筆で読めない。
- ・ コンタミネーションを理解していない親が多く、対応に困っている。
- ・ アレルギー対応が必要な子の保護者へ年1回の提出を求めたいのですが、「かかりつけ医に、毎年の証明は必要ないと言われたから出しません」と言う方がいます。これから保険適用になると伺っていますので、医療機関側でも年1回の受診で経過をみていくことや学校への管理指導表の提出の必要性をお話しして下さるといいなと感じます。
- ・ 提出依頼しても、受診してもらえない家庭があり、学校の調査表で対応しています。「いくら」「そば」は給食では扱わないのと、調理実習や校外学習時でも、学校の事前調査でわかっているのですり扱うことはないのですが、初回に生活管理指導表を提出してもらった後に、毎年1度の生活管理指導表の提出をお願いしたほうがいいのでしょうか。
- ・ 1年に1回提出してもらおうのが理想だが、毎年の受診や書類作成にかかる費用が保護者の負担になる場合もあるようで、強く要望できない。